

輪島市町野地区で「まちのラジオ」を放送 ～FM実験試験局による臨時災害放送の運用実験～

総務省北陸総合通信局（局長：菱田 光洋）は、令和7年2月23日（日・祝）、令和6年能登半島地震及び奥能登豪雨の被災地である輪島市町野地区において、当局が保有する臨時災害放送局相当の実験試験局を用いた運用実験を実施しました。

運用実験では、受信エリア調査の他、町野地区の住民有志による「町野復興プロジェクト実行委員会」と共同し、臨時災害放送局「まちのラジオ」を開局した想定で、被災者支援情報番組の制作やインターネットラジオでのサイマル送信など、臨時災害放送局のデモンストレーションを行いました。

北陸総合通信局は、臨時災害放送局用設備の無償貸与やその開局支援を通じて、引き続き地域に貢献します。



総務省から貸与可能な臨時災害放送局の放送設備（他にアンテナなども附属）。

臨時災害放送局は、地方公共団体などから住民へ、災害の被害の軽減や被災者への生活関連情報をFMラジオを通じて伝達するための放送局です。

（今回は実験試験局として運用しました）



輪島市町野多目的集会施設の屋上に仮設した放送アンテナ(左)と、受信エリア調査として電波の強度測定などを行う当局職員(右)。

町野地区の仮設住宅周辺のほか、沿岸部や山間部へ赴きデータを取得しました。



「まちのラジオ」のスタジオの様様。

今回の運用実験は、輪島市町野支所、町野復興プロジェクト実行委員会、一般社団法人日本コミュニティ放送協会（JCBA）北陸地区協議会、一般社団法人オナガワエフエム、その他多数の組織・個人の協力のもと実施しました。